

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300185		
法人名	医療法人社団三思会		
事業所名	グループホームクララ梅田		
所在地	群馬県桐生市梅田町1丁目385-4		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームクララ梅田は桐生市の梅田の山々に囲まれた、自然豊かな環境の所にあります。四季折々の季節を感じながら過ごして頂いています。ホームを取り囲む様に、ウッドデッキがあり、解放感あふれる造りになっています。春は城山の桜、夏は山々の緑、秋は紅葉と自然とふれあいながら日々生活しています。家庭的な環境の下、家事を出来る方には手伝って頂き、介護を受けるだけではなく、お互いを支えながら生活が出来る様支援しています。母体が病院なので後方支援を行い、緊急時も受け入れてもらえる様な体制をとっています。三思会グループホーム部として6事業所8ユニットで運営しています。サービス向上委員会、教育委員会と委員会活動も行い、ケアの質の向上とサービスの向上を検討しています。入居者様が穏やかで安心した生活ができる様、努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある家庭的な環境・雰囲気作りを、管理者を中心に考えている。利用者それぞれの思い・意思を大切に考え、担当職員が介護計画に基づいた本人中心のケアを実践している。それにより職員間の情報共有やモニタリングにも繋がり、重度化が進んだとしても、その人らしい心の自立が出来るように考え、認知症の勉強会を実施している。また、温かい料理を温かいうちに食べてもらうことや、食材の匂い、色彩を意識した食事や旬なものの提供を心掛けている。リスクマネジメントの観点から利用者側のリスクだけでなく事業所側のリスクも踏まえた転倒防止のための説明を行うことで、利用者が安全・快適に暮らしていけるような工夫がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに理念を掲げ、日々の業務やケアを振り返っている。職員の会議の時にも基本理念を 忘れないよう話し合っている。	職員の理念への考え方・感じ方が違う場合は、管理者が個別に面談し、共有できるように心掛けている。利用者の個々の思いや関わり方について、疑問に思うときは、理念に基づいた振り返りの勉強会を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入している。ホームのご近所さん とは野菜を頂いたり、ホームの手作りのおやつを おすそ分けしたりの交流はある。	コロナ禍の為、地域交流が厳しい状況下ではあるが、散歩や野菜のお裾分けを頂戴した際にお話をしたり、イベントを通じて事業所の現状を知ってもらったりして、交流を深めるように心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、具体的な事例について 報告や民生委員さんが抱えている困難事例への アドバイスをしたりなどはある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況や入居者様の報告は行っています。たの事業所の事例等参考になる意見を頂き ホームでの取り組みに活かしています。	区長、民生委員、市職員(包括支援センター職員)、家族、職員で、テーマを決めて隔月開催していたが、現在は、書面に写真を添えた事業所の現在の取り組みや、職員間の感染症対策の研修の様子を記載し、直接手渡して説明をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議会議に出席して頂き、ホームの現状や桐生市の方針等聞いたりとの交流はとれている。担当が同じ方なので、市役所に出かけても 話やすく、対応してくれる。	報告や相談の他、地区の住民むけに事業所を研修会場として利用可能なことを説明し、関係づくりに努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議のメンバーで「身体拘束委員会」を 立上げ、ホームの取り組み等を話合っている。 職員とも会議などや日々の業務の中でケアの見直しを行っている。	転倒リスクを説明し同意を得た上で、ペットの側にセンサーを使用して、転倒事故防止の為の対策を、身体拘束委員会に報告している。スピーチロックを含め拘束に関しては、その都度、管理者が職員と一緒に考えて身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待への怖さや痛み、自分の職務の意味を理解して、具体的な研修も行っている。他の職員の言動を互いに見て、注意し合える環境づくり に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会で学ぶ機会を作っている。実際に活用し、援助に結び付けた事例はまだ無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は時間に余裕を持って、丁寧に説明している。ご家族への確認を行いながら時間をかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族さまアンケートを行っている。要望や意見を記入して頂き、日頃の思いを知る機会になっている。ご家族様にも個別での対応ができる様にしている。	年に1度、家族との連絡体制やケアのあり方、職員の対応、その他要望を、無記名アンケートを実施し、意見を反映できるよう取り組んでいる。コロナ禍で面会に関する問い合わせが多かったが、現在は時間を限った直接面会が可能となり、説明に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	梅田会議の時や日ごろの話の中で要望や提案を聞き可能な限り、叶えられる様務めている。	ケアの方向性や職員の意見を反映できるように事前アンケートを実施した上で、月に1度会議で話し合う場を設けている。残業が多くなりがちで職員の仕事への負担が増えているとの意見があり、法人に相談し、意見が反映された事案がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議の時等で上層部への報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望があれば、法人外の研修への参加の調整を行っている。教育委員会で年頭に研修の希望を全職員から集め、希望に添う様に計画を立て勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	委員会活動で他のホームとの意見交換や交流を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談や見学時に何に困っているのかを聞いて、支援の方法などを伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には見学や説明に来所して頂き、困りごと など聞いている。可能な支援を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症状のレベルによってはグループホームでは難しい、本人の満足度が叶えられないという 事もあり、他のサービスの提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として知識豊富な事もあるので 無理のない様に教えて頂いている。家事への参加ができる様、場面設定を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子は報告をまめに行っている。家族の力の大切な事を伝え、ホームの行事に参加して 頂いたり関わりを多く持てる様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力も頂き、馴染みの所への外出や 面会に来て関わって頂いている。	行きつけの美容室がある方には、家族にお願いしているが、基本的に、自宅周辺へのドライブや近くのお店で外食や買い物など個別に対応し、関係継続に努めている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を見極めホールでの席をどうするか検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後退所になったケースでも、家族の相談を受け、施設の紹介を行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを一方からではなく、色々な方向から見る様にしている。家族からも情報をもらい、本人に近づけるよう務めている。	思いの把握が難しい場合は、一人の職員で考えるのではなく、その都度、利用者の思い・感じ方の方向性を話し合い意見を出し合い、また自宅での様子を家族に聞き、把握するように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を担当の相談員さんから頂いたり 家族から聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の時間の過ごし方は大きくは決まっているが 本人のペースに合わせている。カンファレンスや 会議の時話あっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個々に職員の担当があり、モニタリングを行い、カンファレンスでプランが現状にあっているかの話し合いを行っている。	入居前のアセスメントで意向を確認し、反映させている。介護計画を掲示し、短期目標を意識したケアを実践し、日々の記録に記載している。またそれを軸にモニタリングを職員間で実施して会議をし、家族のニーズも再度聞いて、次の介護計画に反映させている、	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を行っている。一週間はケア記録帳にファイルして、全職員が見られる様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診の援助や買い物の援助など 家族の要望に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェなど参加できる事は検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの往診医は決まっているが、までの医療を受けたいとの希望があれば受けられる様支援している。精神科受診や外科など往診医以外の受診をされている方もいる。	入居時に、従前のかかりつけ医かホームの協力医か受診の希望を聞き、継続の場合は、家族にお願いしている。また突発的な受診時は、職員が対応し、次の予約から家族にお願いすることもある。受診記録用紙に内容を記載することで、受診を含めた状況の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護師の訪問があり、必要な事を伝えられるよう連絡表を作り、報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員さんとの連携を密に取り、入院期間の相談や退院に向けての調整をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約時重度化・終末期ケア対応指針の説明は行っている。塗んち症状の進行と共に食事が食べられない状態がみられたら、早い段階で状態の説明は行い、家族の意向や今後を話し合っている。	入居時に説明をし、食事が食べられなくなってきた状況(ブレンダー食が食べにくくなる状況)に応じ、医師から説明してもらい今後の対応を協議して、家族に判断してもらっている。また、元気な時に本人から要望を聞くこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	教育委員会の勉強会で年に一度救急救命の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難確保計画を作成してある。実際には避難場所が公民館では難しく、関連事業所への避難になる。	通常は、運営推進会議後に年に2回実施し、皆様の意見を伺うようにしている。火災時は、庭のウッドデッキに利用者を避難させ、消防署からの応援支援を待つようにしている。水害時は、隣の建築会社の2階へ避難場所の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	狭い空間での関わりなので、職員は気づかずに 損な言葉かけを行ってしまっていることもあり 繰り返しの勉強会や面接を行っている。職員全員の問題として会議の議題にしている。	言葉の口調が強いと利用者の不穏・不安に繋がるので、言葉かけのアンケートを職員で行い、勉強会を実施している。寝たきりになっても人としての配慮を忘れないように、ゆっくりと丁寧なケアが出来るように心掛けている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の好きな飲み物を提供したり、希望を把握する様務めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きい一日の流れはあるが過ごし方は本人のペースに合わせている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で更衣できる方は洋服も選んでいる。介助が必要な方は職員が選ぶが好みを考えながら選んでいる。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は何よりの楽しみです。色合いを工夫したり 調理担当の職員が手作りでおやつを作ったり 季節の食材で季節感を出しています。	業者配送の食材を担当職員が調理し、温かい料理の提供を心掛けている。ふきのとうや芋煮など季節食材や、鯉のぼりをイメージしたたい焼き作りなど、季節感を大切にしている。また、朝はコーヒーかお茶か選べるようにしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や食形態は個々に合わせています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必ず行っています。自分では難しい方は介助を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄パターンを把握して、時間での誘導の 方やパットの確認の方自分で排泄が自立出来て いる方などそれぞれ個別の支援を行っています。	人居時に排泄リズム知ること、声かけのタイミングを把握し、失禁リスクの軽減に繋がっている。朝食に乳製品を追加し、それでも便秘がちな場合は、医師に薬を依頼している。便座に座れないなど身体状況に応じて2人介助で対応し、おむつにならないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト等の食材を多くしたり、水分の 摂取の声掛けをしたり、腹部へのホットタオルを 行ったりと工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はゆっくり時間を取り、行っている。曜日や時間は本人の希望には添っていない。入浴剤の使用などで温泉気分を味わって頂いている。	週2回の入浴を基本とし、入浴の嫌いな方には、時間変更や再度声かけを促し、それでも無理な場合は、着替えや体を拭いて清潔の保持に努めている。車いすの方は、2人対応で入浴介助を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に居室での休憩を行ったり、朝日は浴びる様 努めたり、昼間のレクなどで入眠できる様に工夫 している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬局さんがDrの処方薬は管理している。 職員も服用している薬の薬情の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の個々の生活のスタイルの把握を家族や 相談員さんから情報をもらい、希望の添える様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば外出の支援も行いたいが 高齢な事もあり、外出を希望されなかったり、場所が変わり戻ると混乱してしまう方も居て、中々 支援出来ていません。	外出でどこに連れていかれるのかと不安・不穏になる場合もあるので、個別に花見など外出支援をしている。また、ウッドデッキに囲まれているので、ウッドデッキを歩いたり外気浴したり、外出の代用支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として家族からお金を預かっていて希望があれば買い物に出かけたりしている。 一人の方だけ自分で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望して家族に電話をかけ、話をしたが 喧嘩になってしまい、かけないで欲しいという事も あった。奥様からの手紙が良く届いた方もいました。ケースバイケースです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の湿度や温度はまめに調整しています。換気には特に気をつけている。ホームの整理整頓感染予防に気を付けている。	職員が温度・湿度調整し空調管理をして、季節の花を飾り、座席の場所で問題がある際は変更している。また、手すりがある箇所周辺に荷物を置かないようにして、歩く際の妨げにならないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの過ごし方個々で違っている。絶えず 場所を移動している方や気の合った方と話をしていたり、テレビを見たり、様々です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には家である物をお願いしています。 テレビを持ってきている方、神様を持って来ている 方と色々です。	基本的に、危険のある物以外の持ち込みは自由である。布団の位置も、寝心地含め快適な居室空間作りに繋げている。また、清掃に関しては、一緒に出来る方にはほうきを渡して、職員と行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見当識障害のある方も居るのでトイレの場所や 自分の部屋等に大きく名前を付けています。		